

社会福祉法人章仁会 平成 30 年度事業計画

平成 30 年度の介護報酬の改定率はプラス 0.54%となりました。臨時改定を除けば介護報酬のプラス改定は平成 24 年度改定以来 6 年ぶりであります。

厚労相は事業所の安定経営の確保などに必要な改定幅としていますが、特定の加算の創設や引き上げでのプラス改定であり、通所介護などでマイナス 0.5% 相当の給付適正化も実施されるため、サービスによってはかなり厳しい改定となります。

前回の平成 27 年度介護報酬改定では実質 4%ほどの大幅な引き下げを実施されています。平成 29 年介護事業経営実態調査によると改定以前との比較で、介護保険 22 サービス中 17 サービスの収支差率が悪化。介護事業者の厳しい経営実態が浮き彫りとなっており、当法人においても例外ではありません。落ち込みの激しい通所介護では、平成 25 年をピークに稼働率が落ち込み続け、法人に与える影響も大きくなっております。同業他事業所との差別化、選択されるサービスへの転換、持続可能なサービスとして効率化を進めていかなければ、更に厳しい状況に陥ることになります。

このような厳しい状況の中、当法人各事業所における事業計画次のとおりと致します。

1. 法人事務局

昨年度より手がけている次の項目について、更なる検討と実現を目指します。

- ①人材確保定着：具体的な手法（コンサル会社を活用し、メンター制度の導入）を更に定着させます。
外国人労働者（外国人技能実習制度）についての継続検討を致します。
- ②人材育成：中堅職員の育成（管理職がリーダーを育てる仕組みをつくる）
次期管理職、主任・副主任候補の育成を主導します。
- ③地域貢献事業である、地域トレーニングを更に活性化させます。

2. 介護老人保健施設リカバリーセンター章仁苑

1) 老健

稼働：1日平均、入所63名、短期入所2名（+空床）で、65名。

内容：個別の身体状況にしっかりと対応したケアの推進を図るため、リーダーを中心とした職員体制のグループ化による、より利用者それぞれのニーズに対応した個別ケアの徹底を目指します。又、老健の理念でもある在宅復帰を可能な限り実現し、看取りに関しても、要望に応える体制づくりを推進し、上位の介護報酬が算定できる体制を早期実現します。

2) 通所リハビリ

稼働：1日平均15名

内容：基本サービス提供時間は6時間～7時間とし、多様なリハビリやアクティビティ活動に対応したケアと小集団でのきめの細かなケアの両立を図りながら、利用者の満足度向上に繋がります。短時間のリハビリ特化型サービスも検討実施致します。

3) 訪問リハビリ

稼働：1日平均4名

内容：医療や在宅サービス（短期入所や通所サービス）への連携を密にすることで、切れ目のないサービスを実施し、療法士の増員に伴い、相互補完できる体制づくりを目指します。

3. 通所介護事業所章仁苑センター

稼働：1日平均25名

内容：個別機能訓練加算Ⅱの部分算定は継続し、介護サービスやアクティビティ重視の職員配置やサービス内容にシフトさせます。

基本サービス提供時間は6時間～7時間とし、稼働率が低迷している状況を打破すべく、現状のサービス見直しや外部情報の取り込み等を行い、将来事業継続を可能にするためにサービス改革を実施します。

4. かわにし小規模多機能施設

稼働：目標登録者25名、月平均泊り人数45名

内容：看護師の常勤配置、及び通い、訪問を積極的に行う小規模多機能施設としての特徴を活かし、地域に密着したサービスを提供します。

又、地域密着事業所とし、元気ハツラツ教室等中心に地域との連携を強めます。

5. 章仁会居宅介護事業所

稼働：1 か月平均 35 名/人目標

内容：常勤 2 名の居宅事業所ですが、主任介護支援専門員も育成し、特定事業所加算事業所として活動するための体制を、法人内で人材育成と絡め整えます。

6. 住宅事業

1) サービス付き高齢者向け住宅

地域交流や介護保険サービス以外の活動的生活の提供を積極的に行います。競合他住居も増え、待機者数も減少しているため、各媒体を用いた広告活動も積極的に行います。

2) 高齢者・子育て支援住宅

老朽化した住居、設備の見直しを行います。

7. 地域支援事業

1) 元気ハツラツ教室

三次市が受託者募集した場合、①和田②川西にて受託し実施する予定です。

2) 地域トレーニング教室

週に 3 回、和田の地域にて無償実施を継続します。

参加する方はスポーツ保険費用のみで参加出来ます。

地域サロン化に向けての試行を進め、地域貢献事業の軸として活動します。